

かつての菅(かん)氏は任期中3・11大震災に遭遇・対策に奮闘、が1年3ヶ月足らずの任期であった。この度の菅(すが)氏はコロナ禍最中に発足、どうであろうか。9月9日のゼミは、「1930年代の世界」を小野さんの個人報告で「2. 第2次世界大戦の勃発」まで行い、「3. 反ファシズム戦争への転機」からは次回に繰り延べました。報告者から、資料には歴史をまとめたものを使用せず、それぞれの時点の資料を用いた、と。アメリカ、イギリス、フランス、ソ連、中国、日本、ドイツ、イタリアの当時の出来事を年次順に表にし、1930年代は覇権国が離合集散を繰り返して多極化した世界であった。各国でファシズムが勝利し、反ファシズム統一戦線が敗北したのは、コミンテルンに対し欧州では当事者の自主的決定権を与えられなかったからで、中国は決定権をもち抗日統一戦線が成功した。第2次世界大戦が勃発するが、それは当初から反ファシズム戦争ではなかった。妥協的な英仏がソ連の孤立を防ぐ手段であった。討論では、米国の中立法は欧州のみで、他の国には軍事力を使うのでは。スペイン内戦では共産党がアナキストを追い出し分裂した。フランスの人民戦線政府には共産党は参加せず。コミンテルンの社会ファシズム論はどうか。スターリンと毛沢東との違い、ロシアはレーニンが権力を取り、中国は毛沢東が自ら権力をとった。毛沢東の評価：統一戦線論は毛沢東か、コミンテルンの方針か。ヒトラーは米国と戦いたくなく、対ロシアであり、日本が米国と戦うことに疑問視。周近平著書の日本語翻訳本はない、演説集はあるが。アメリカの時代は終わりつつあるのか。出席は、小野さん、川口さん、松村さん、大村さん、竹内さんと高田の6名でした。

* 10月14日ゼミは、個人報告「1930年代の世界」の後半、「3. 反ファシズム戦争への転機」から行います。

* 6月10日ゼミで萩原本を終わりました。11月からの新しいテキスト候補の推薦をお願いします。前回ゼミでは、大西広他『中国は社会主義か』、菊本美治他『日本経済の長期停滞をどう見るか』、斎藤幸平『大洪水の前に』、同『人新世の「資本論」』(9/17新刊・集英社新著)、米原万里『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』が出ました。提案をお願いします。

***** ゼミ日程 *****

9月23日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻34章	通貨主義・銀行立法 報告大村さん
10月14日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告：テーマ「1930年代の世界」(後半)	報告小野さん
10月28日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻35章	貴金属と為替相場 報告者未定
11月11日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
テキスト未定	報告者未定

その後 11/25, 12/9, 12/23, 1/13, 1/27, 2/10, 2/24 (アイクルの部屋)